



一羽一羽に平和への願いを込めて、原爆の子の像に千羽鶴をさげました。



失われた命に祈りをささげ、平和への誓いを新たにしました。



ピースボランティアによる解説を受け、命の尊さを肌で感じました。

献鶴

合掌

平和ガイド学習

8月は海老名市 平和月間 未来へつなぐ平和への想い



平和記念公園での平和合唱
平和への想いを歌声に乗せました

世界平和は、私たちの暮らしにつながっています。グローバル化が進んだ現代では、遠い国や地域で起きる戦争・紛争が物流の停滞や物価高騰などを招き、日々の生活に影響が及んでくることもあります。

これらを踏まえて8月の平和月間にちなみ、市内の中学生が修学旅行を通じて自身の目で見て、耳で聞くなど、五感で感じた「平和」への想いと学びなどを紹介します。

平和への想いを育む学び

有馬中学校は、「平和」を自らの問題として考え、それらを伝える力を育むため、平成29年度から平和学習を開始しました。令和元年度からは修学旅行先に広島を選び、体験を通して「平和」について学んでいます。

広島を選んだ背景には、「平和は一人一人が考えるもの。平和はみんなで創るもの。中学生の間に平和を学ぶ意義がある」という前校長の強い想いがありました。

1年生ではなぜ戦争は起きるのかについて話し合いました。2年生では戦争に向かう心理や価値観の違いについて学び、被爆ピアノコンサートなども体験。3年生では平和学習の集大成として、修学旅行で広島を訪れ、3年間で段階的な平和学習に取り組んできました。

平和を未来へつなぐ学び

広島を訪れた生徒たちは、ささげられた千羽鶴の数だけ「平和」を願う人々の想いがあることを肌で感じ、平和記念資料館では当時の写真や遺品にふれて、戦争がもたら

した悲しみや苦しみに想いを馳せました。

平和合唱として想いを込めて『翼をください』を歌うことで、平和な社会を願う気持ちを届けました。ピースボランティアの解説を聞きながら、平和が決して当たり前ではないことを再認識し、同じことが二度と起きないよう、自身の考えを身近な人に伝えていく大切さを心に刻みました。

3年生で体験した修学旅行を通じて、1年生からの平和学習を結びつけることができた生徒たち。現地での学びや交流は大きな財産となり、未来に「平和」を紡ぐ糧となりました。

写真提供…株孔文社

有馬中学校平和学習プログラム

1年生

- なぜ戦争は起こるのか
- 立場の違い

2年生

- 身近な戦争と平和
- 戦争の様子を知る
- 戦争へ向かう心理
- 価値観の違い
- 学校での被爆ピアノコンサート

3年生

- 広島への修学旅行
- 実際の戦争の様子
- 私たちにできることを考える

